

令和7年度		昭島市立玉川小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)中間報告	
学校教育目標	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	
				評価	成果指標
				評価	取組の進捗状況
確かな学力	「分かることとできること が楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業づくりの基本的項目をまとめた「玉川授業力スタンダード」に基づき、授業改善を行う。	【目指す学校像】 ○最大の 子供の健やかな学びを保証する学校 【目指す児童・生徒像】 ○自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担う人材 ～Think Globally, Act locally. ～ 【目指す教師像】 ○認め合い・支え合い・高め合うチームである教師	玉川小授業力スタンダードに基づいて、授業観察や机上などいっしょに見えるところに置き、すべての教員が意識できているが実践の授業においてはの構成状況としては十分な部分がある。一方、授業の構成が児童の举手にはつながらない状況がある。
				4 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が70%以上 3 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が50%以上 2 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%以上 1 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が10%未満	2
				4 教室環境を整備した教員が80%以上 3 教室環境を整備した教員が70%以上 2 教室環境を整備した教員が60%以上 1 教室環境を整備した教員が50%未満	3
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳的諸価値について、「価値・人間・他者」理解を深め、自己生き方を見つめ直し、道徳科授業の充実を図る。	インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	4 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が80%以上 3 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が70%以上 2 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が60%以上 1 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が50%未満	4
				4 SOSカードを活用し、児童と教職員がコミュニケーションを深め、安心して登校できる環境をつくる。	4
				4 SOSカードを原簿に作成させた教員が80%以上 3 SOSカードを原簿に作成させた教員が70%以上 2 SOSカードを原簿に作成させた教員が60%以上 1 SOSカードを原簿に作成させた教員が50%未満	4
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	「グッドモーニング60分」の活用において、「見通し」「振り返り」を行う。	4 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が80%以上 3 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が60%以上 2 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が40%以上 1 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が20%未満	2
				4 中休みに校庭で児童と活動した教員が70%以上 3 中休みに校庭で児童と活動した教員が60%以上 2 中休みに校庭で児童と活動した教員が50%以上 1 中休みに校庭で児童と活動した教員が40%未満	4
				4 地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上 3 地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上 2 地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上 1 地域人材を活用した授業を行った教員が20%未満	4
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じ、子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	「昭島市民科」として、生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て、地域社会に貢献できる児童を育成する。	地域人材を活用した授業を行い、地域と学校が共にWin-winの関係をつくる。	4 地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上 3 地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上 2 地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上 1 地域人材を活用した授業を行った教員が20%未満	1
				4 児童が主体的に取り組み活動の充実を図り、主体的態度・学校を創造する態度を育成する。	4
				4 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が70%以上 3 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が60%以上 2 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が50%以上 1 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が40%未満	4

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	「分かることとできることが楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業づくりの基本的項目をまとめた「玉川授業力スタンダード」に基づき、授業改善を行う。	4 玉川小授業力スタンダードを20項目5回を達成した教員が80%以上 3 玉川小授業力スタンダードを20項目5回を達成した教員が60%以上 2 玉川小授業力スタンダードを20項目5回を達成した教員が40%以上 1 玉川小授業力スタンダードを20項目5回を達成した教員が20%未満	3	4 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が70%以上 3 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が50%以上 2 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%以上 1 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が10%未満	2	玉川小授業力スタンダードに基づいて、授業観察や机上などいっしょに見えるところに置き、すべての教員が意識できているが実践の授業においてはの構成状況としては十分な部分がある。一方、授業の構成が児童の举手にはつながらない状況がある。	算数や読書活動を中心に言語活動の時間を確保する中で授業力スタンダードの達成日数を増やしていく。児童の举手率を上げるための課題設定の再構築、子供の心理的不安の排除を行っていく。
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳的諸価値について、「価値・人間・他者」理解を深め、自己生き方を見つめ直し、道徳科授業の充実を図る。	インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	4 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が80%以上 3 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が70%以上 2 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が60%以上 1 道徳的諸価値を醸成して道徳科授業を行っている教員が50%未満	4	4 先生の書く黒板が分かりやすい児童が70%以上 3 先生の書く黒板が分かりやすい児童が60%以上 2 先生の書く黒板が分かりやすい児童が50%以上 1 先生の書く黒板が分かりやすい児童が40%未満	3	学校の方針に則って、教室前方が整頓されている。黒板は授業の内容のみが表示されるようにしている。また、児童が授業の流れが分かりやすいように授業の形式が比較的统一されている。	現在の取組を継続する。また定期的(学期はじめ、学期終わりに、学校公開などの前)に教員が声を掛け合う。
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	「グッドモーニング60分」の活用において、「見通し」「振り返り」を行う。	4 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が80%以上 3 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が60%以上 2 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が40%以上 1 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が20%未満	4	4 学校の指でも黒板が分かりやすい児童が70%以上 3 学校の指でも黒板が分かりやすい児童が50%以上 2 学校の指でも黒板が分かりやすい児童が30%以上 1 学校の指でも黒板が分かりやすい児童が10%未満	4	道徳の授業の充実を進めた結果、思いやりの心をもった行動で児童が増えている一方で、その対象が身近な友達や慣れ親しんだ人に限られる傾向も見られる。	人間理解をさらに深めるために、思いやりの心をもって行動できない児童の心理にも目を向け、多くの児童が多面的に考えられるよう話し合いを重ねる。また、これまでの自分の行動を正確に振り返る学習を大切にしていきたい。
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じ、子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	「昭島市民科」として、生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て、地域社会に貢献できる児童を育成する。	地域人材を活用した授業を行い、地域と学校が共にWin-winの関係をつくる。	4 地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上 3 地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上 2 地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上 1 地域人材を活用した授業を行った教員が20%未満	4	4 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が80%以上 3 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が60%以上 2 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が40%以上 1 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が20%未満	4	SOSカードを活用し、担任以外にも相談する相手を見出し、特別支援委員会、不登校対策委員会、いじめ対策委員会を中心に、学校全体で様々な角度から児童を見守っている。	SOSカードを活用し、担任以外にも相談する相手を見出し、特別支援委員会、不登校対策委員会、いじめ対策委員会を中心に、学校全体で様々な角度から児童を見守っている。
				4 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が80%以上 3 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が60%以上 2 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が40%以上 1 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が20%未満	4	4 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が80%以上 3 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が60%以上 2 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が40%以上 1 活用で「見通し」「振り返り」を行った教員が20%未満	2	児童は、「グッドモーニング60分」を活用して自分自身の生活を振り返っているが、見通しが甘く、適切な目標設定ができなかったり、次の取組につながらなかったりする場合も見られる。	カード記入期間以外でも望ましい生活習慣を定めて、児童に促していく。
				4 中休みに校庭で児童と活動した教員が70%以上 3 中休みに校庭で児童と活動した教員が60%以上 2 中休みに校庭で児童と活動した教員が50%以上 1 中休みに校庭で児童と活動した教員が40%未満	4	4 中休みに校庭で児童と活動した教員が70%以上 3 中休みに校庭で児童と活動した教員が60%以上 2 中休みに校庭で児童と活動した教員が50%以上 1 中休みに校庭で児童と活動した教員が40%未満	4	授業では、玉川ストレッチャで独自の体操を行い、規範を示しながら楽しく取り組んでいる。また、休み時間には全面的に、体力向上を目標として、細切れでの俊敏性や、持久走での持久力向上などを目標に行っている。旬間以外でも、教職員年次に関係なく、外に出て児童と一緒に学年に応じた遊びを共にしている。	慣習として行っているのではなく、児童の実態を考慮し、運動のできる行事を考えた上で、児童による自主的な取組や企画活動を実施していく。
				4 地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上 3 地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上 2 地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上 1 地域人材を活用した授業を行った教員が20%未満	4	4 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が80%以上 3 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が60%以上 2 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が40%以上 1 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が20%未満	1	総合的な学習の時間の中で研究授業などを通して意識的に人材活用をしている学年とそうでない学年に分かれて見られる状況がある。また、指導過程の中の「発信」する項目について児童が自ら地域の役に立っているかどうかという意識にまで高めている内容になっていないところがある。	外部人材活用一覧表の配布、記入に当たっては学年の意識を高めるとともに、年間指導計画の中に位置付けさせるよう、関係する学年の中に位置付けさせるよう、学年の「メールマガジン」の中に、地域参画の取組や、発信の具体的な活動について考えられるようにしていく。
				4 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が70%以上 3 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が60%以上 2 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が50%以上 1 児童が主体的に取り組み活動を行った教員が40%未満	4	4 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が80%以上 3 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が60%以上 2 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が40%以上 1 自分や友達の名前を覚えてくれる児童が20%未満	4	学校全体としては、児童会が発足し、中央委員会を開催することで児童が主体的に学校を創造する活動が非常に活発になった。しかし一方クラス単位で見ると、休みの時間の外遊びや推進等で係活動や委員会活動を行う時間が取れず、充実していない現状がある。	児童会、中央委員会活動はそのまま継続し、様々な行事において児童が主体的に取組めるように計画する。また、クラス単位での係活動や委員会活動等を推進できるように、時間の確保や枠組みを考える。